

様式2

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

学校名 磐田市立東部小学校

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

1 実践テーマ	【 Ⅲ 】
2 実施対象者	第6学年 （116名） 第5学年 （133名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ①教科名（総合的な学習の時間）
4 目 標 （ねらい）	パラリンピックスポーツを通じて、障がい者と健常者が、お互いのことを理解し合い、「心のバリアフリー」の構築を目指す。
5 取組内容	〈事前学習として…〉 ・スポーツ庁からオリ・パラ教育実践校に配付されている、「オリ・パラに関する指導参考映像資料（15分）、早稲田大学オリ・パラ教育研究センターから出されている「夢に向かって～車いすアスリートの挑戦：副島正純～」（20分）を、児童が視聴する。 ・国際パラリンピック委員会公認教材である「I'm POSSIBLE」を活用し、パラリンピックの価値について学ぶ。 〈オリンピック・パラリンピアン等派遣事業〉 （日 時）平成30年12月12日（水）10:20-12:00 （講 師）バンクーバーパラリンピック アイスレッジ ホケー 銀メダリスト 上原 大祐 氏（NPO 法人 D-SHIP32 一般社団法人障害攻略課 NEC 東京オリンピック・パラリンピック推進本部） （目 的） パラリンピックスポーツを通じて、障がい者と健常者が、お互いのことを理解し合い、「心のバリアフリー」の構築を目指す。 （内 容） ①スポーツ車椅子（ツイバスケ）やボッチャ体験 ※6年生のみ ②目的に沿った講演（キャリア教育の視点も含む）※5、6年生 ※①50分体験会 （休憩・準備） ②40分講演会



6 主な成果	・講演開催前の事前学習として、「I'm POSSIBLE」や関連DVDを活用した授業を各学級で実施した。子供たちが、パラリンピックの価値や、障がい者や健常者の共生社会の在り方について考える、よい機会となった。 ・本物のパラリンピアンを招聘し、障がい者スポーツの指導や、目的に沿った講演を開催していただくことで、子供たちがとても意欲的に参加した。車椅子バスケットボールやボッチャの体験、講師の人間味溢れる講演を通して、「心のバリアフリー」を築くことの大切を、多分に感じ取ることができた、学び多き活動となった。  
7実践において工夫した点 (事業の特色)	・国際パラリンピック委員会公認教材である「I'm POSSIBLE」を事前活用したことで、子供たちの関心や意欲が高まった。 ・大規模校ということで内容の企画が難しい面もあったが、障がい者スポーツ体験は6年生のみ（希望選択制）とし、講演は5、6年生全員が参加するように設定した。それにより、効率的かつ、内容の濃い事業となった。   ・ボッチャ6セット（6面設置）の準備をするにあたり、磐田市スポーツ振興課との連携を図り、物品調達や講師の派遣依頼（市スポーツ推進委員）をした。
8主な課題等	・講師料を10万円で企画したため、12台のスポーツ車椅子の調達に苦労した。交渉の中で、講師側の御厚意により、レンタル料金の半分と、輸送費全額を請け負ってくださった。オリンピック、パラリンピアンを招聘するには、どうしても講師料が高くなるため、限られた予算の中での計画、執行が難しいと感じた。
9来年度以降 の実施予定	・次年度もこの事業に参加して、本年度の成果を2020大会へと繋げていけるようにしたい。 ・校内児童会組織に、「オリ・パラ委員会」を設置して、児童主体の活動も盛んに行うことができる素地を作りたい。